

カードを並べてヒストグラムを作ろう

単 元	資料の調べ方	対象学年	6 年
ね ら い	カードを並べることで、度数分布表を作らなくてもヒストグラム（柱状グラフ）をつくることができる。また、ヒストグラムから代表値（平均値以外）を簡単に探すことができる。		

1 準備するもの

教師： ラミネートしたヒストグラムの枠（資料1）、
各学級の記録が書かれたカード（資料2）、
ホワイトボードマーカー

※ヒストグラムの枠に粘着力の弱いテープのりを付けておく。そうすることで記録が書かれたカードを（付箋のように）貼ったりはがしたりすることができる。

※教科書の記録を貼ることができるように、枠の大きさを2.4 cmの正方形にしている。

児童： 教科書、ノート、はさみ

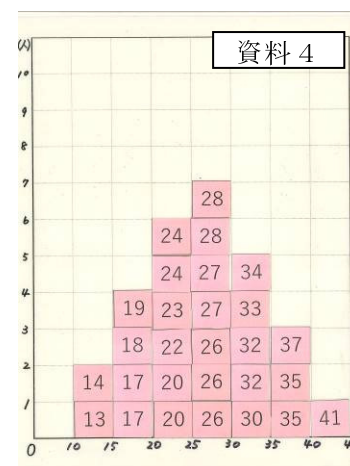


2 学習のしかた

- (1) 3人（または4人）のグループを作り、担当になった学級のヒストグラムを作るように指示する（資料3）。
- (2) 記録用紙に、ホワイトボードマーカーで階級を書く。
- (3) 担当の学級の記録が書かれたカードをはさみで切り、あてはまる階級のところにカードを貼っていく。
- (4) 各学級のヒストグラム（資料4）を見て、気付いたことをまとめる。

例) ヒストグラムの山の形、散らばり具合、代表値（最頻値、中央値、最大値、最小値など）の違いなど

- (5) 階級の幅を5 mから10 mに変え、再度（4）を行う。



3 学習上の留意点

- ・粘着力の弱いテープのりを用いることで、貼ったりはがしたりすることを何度もできることから、その場ですぐに修正することができる。
- ・「以上」や「未満」といった用語の意味をあらかじめおさえておく。

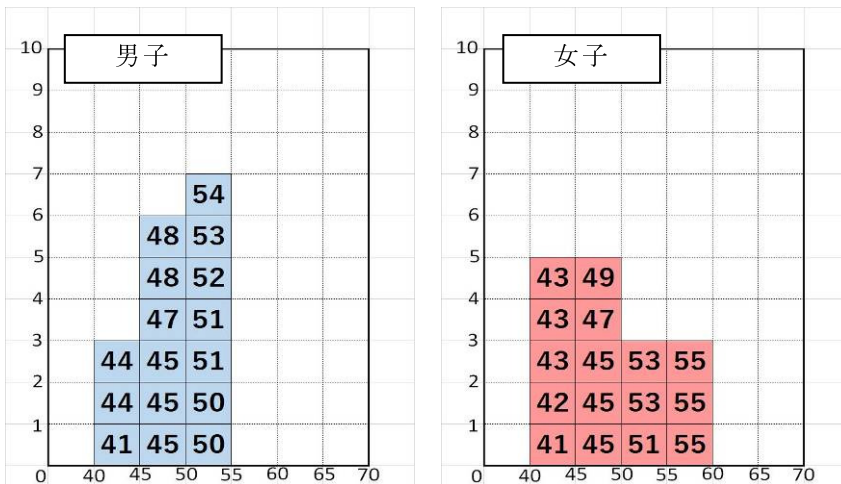
4 学習の効果

- ・カードを並べることで、ヒストグラムを簡単に完成させることができるため、学力に関係なく、どの子も取り組むことができる。また、度数分布表を作らなくても、ヒストグラムを作ることができる。
- ・テープのりの工夫により、何度も貼ったりはがしたりできるため、間違いを恐れることなく作業することができる。
- ・カードのため、階級の幅を変えたときにおいても、すぐに対応することができる。
- ・平均値以外の代表値（最頻値、中央値、最大値、最頻値）について、すぐに探することができる。そのため、5年生で習う「平均値」を求めなくても、データの傾向を分析することができる。

5 その他

- ・発展的な内容として、「反復横跳びや握力に男女の差があるか？」など身近な問題について、同じようにカードを配り、データの傾向を分析することができる。学級の実情に応じて、平均はそれほど差がないものの、ヒストグラムにしてみると差がありそうなものを考えると学級で盛り上がる実践になる。どちらの記録が良いのかを、ヒストグラムや代表値を根拠にしながらかし合いをすることで、より深い学びになっていく実践となる。下の2つの例は、ある学級の体カテストの結果をヒストグラムに表したものである。

例1) 反復横跳び



例2) 握力

